

# 未来のつばさ

## INDEX

P.2 2012年度 自立奨学支援事業を振り返って  
社会福祉法人 岩手愛児会 会長 諮問委員 藤澤 昇

### 講評と総括

エキスパート児童福祉支援協会 選考委員 丹澤 慶子「私の願い」  
未来のつばさ財団 審査委員「選考を終えて」

P.3 2013年度 自立奨学支援制度ニュース  
今年度も皆さんを応援いたします  
はがき回収ボランティアの皆様 ご協力ありがとうございました

P.4 子ども達からの手紙  
ご支援ありがとうございます!

P.6 先輩からのメッセージ  
社会で活躍する先輩たち

P.7 全国里親会イベントニュース  
公益財団法人全国里親会 会長 星野 崇  
子どもたちの自立のために

## 講評と総括

財団の諮問委員になり、多くの人たちが職種・職域を越え、頑張る子ども達を支える側にいることを知りうれしく思った。

支援者決定の審査委員の支援選考の過程を伺い、施設の子ども達が登場された様子が良く分かり、特に支援者決定の最終の態度決定の真摯な苦闘が子ども達の施設生活の現実に関わりなく近づいていた。これは財団の設立の目的とするところでもあるように思う。

本園でも進学者支援に一人お世話になった。

社会福祉法人 岩手愛児会 会長  
諮問委員 藤澤 昇



幼児期に首都圏の児童養護施設で暮らし、故あって学童期から本園に在籍した。幼児期からの施設生活は将来保育士になることを夢見、夢を実現した。障がい児施設の保育士として1年勤務し、半端でない挫折をした。でも資格取得に感謝し人の為にと彼女が動き出した。

「七転び八起き」の挫折の繰り返しで逞しさを身につける。その最初の18歳に、就職と進学<sup>がた</sup>の双方の稀な支援制度は有り難い限りだ。

### 「私の願い」

返済義務のない奨学資金の選考のお手伝いをさせて頂いて5年目になりました。

子ども達の作文を読み、成績表を見て、作文や数字の奥にある日常を読み取りたいのです。

選考審査のあいだ私達の目の前に展開する人生に圧倒されながらも、ここには登場しない施設に暮らすたくさんの子ども達を思います。

エキスパート児童福祉支援協会  
選考委員 丹澤 慶子

奨学金を受けとる子もそうでない子も、施設という家から自立しなければならない現実を思います。

この世の中は平等でもなく、善意ばかりでもない、でもそれでもまだ会ったことのない君たちを、私達はいつも応援しています。頑張れ・負けるなど。

そして、誇りを持って世の中の役に立つ人になって欲しい、そう願っています。

### 「選考を終えて」

未来に向けて希望を持ちその希望をかなえようと一生懸命頑張っている子ども達の姿を目の当たりにし、強い感動と自分自身への反省の念を感じます。

就職・進学いずれを希望している児童も、多くの子供たちが自分と同じ境遇の子もたちと寄り添うような職業、進路先を希望していることに感動しました。

選考していて、本当に支援を必要としているのは、環境の影響で学力が低かったり、出席率の低い子ども達なのかもしれない、と感じました。しかし一方で、成

未来のつばさ財団  
審査委員

績が優秀なのに経済的な理由で進学できない子どもも支援を必要としています。応募者全員に支援することができれば本当は一番よいのかもしれませんが、どこかで線を引かなければならないため、辛い気持ちになります。

私の想像をはるかに超えた厳しい環境の中、精いっぱい努力している子どもたちの心が折れることなく育って行ける社会にしていくには、自分は何をしらいいかを考え続けなければと思います。

## 今年度も皆さんを応援いたします

### 2013年度 自立奨学支援制度

#### ■ 支援対象

- ① 児童養護施設入所の児童
- ② 母子生活支援施設入所の児童
- ③ 里親委託児童
- ④ ファミリーホームに入居の児童
- ⑤ その他の児童福祉施設に入所の児童

上記の児童で、原則として18歳を迎え進学、就職の決定者が対象となります。

#### ■ 支援内容と支援金額

進学者・就職者への支度金として一人15万円を支援いたします。この支援金の返済義務はございません。

#### ■ 支援予定者数

155名（進学者 50名、就職者 105名）

#### ■ 選考方法

申請書に基づき、「支援制度選考委員会」によって書類選考を行います。

\* 受付期間、その他手続き詳細は、下記ホームページ専用サイトをご覧ください。  
本年度の応募要項は9月以降に作成・公表予定です。

<http://www.mirainotsubasa.or.jp>

<http://www.ex-child.or.jp>

## はがき回収ボランティアの皆様 ご協力ありがとうございました

2012年度も皆様のご協力により、多くの書き損じ、未使用ハガキが回収されました。

この寄付金により昨年度は15名の子ども達へ追加支援を行うことができました。

「ハガキ回収ボランティア」はエキスパート児童福祉支援協会の理事の方々の提案で始まり、昨年度は楽天生命保険株式会社の皆さんの呼びかけで多くのご支援をいただきました。この貴重なご支援に全国の子ども達から多くの感謝のメッセージが届いております。皆様の献身的な活動に心より感謝申し上げます。

当団体では書き損じはがきでのご寄付を随時受け付けております。詳細はホームページでご確認ください。ご協力をお願いいたします。

#### ご報告

〈はがき枚数〉 49,766枚

〈寄付金額〉 2,205,696円  
(交換手数料を差し引いた金額)

\* 回収キャンペーン期間

2012年11月1日～2013年1月31日

\* 切手、テレフォンカード、図書カード等のご寄付も頂戴いたしました。

子ども達のために使わせていただきます。



# 社会で活躍する先輩たち

自立奨学支援制度の支援を受け、社会人として成長している先輩から、今まさに施設を巣立っていこうとする子ども達へのメッセージです。



## チャレンジ

2007年鎌倉児童ホーム退園生  
塚田 朱薫(サービス業社員)



9歳のころに突然、兄弟3人施設で生活することになりました。施設でのルールのある毎日と、過去の事、未来への不安などで小学生のころは布団の中でよく泣いていました。そんな私の施設での楽しみはソフトボールとマラソンでした。どちらも仲間がいて一緒に汗を流し結果を残すことが楽しくて仕方ありませんでした。高校卒業後の進路には悩みましたが、周りの助けも借りながらいくつかの奨学金を受けることができたこともあり、大学に進学することに決めました。就職しか道がないと思っていたので嬉しかったです。現在は、大学を卒業しサービス業に就いていますが、今となっては施設での生活を懐かしく思います。長い修学旅行のようにも思えます。施設生活を嫌だと思ふこともありますが、施設にいるからこそできることも多いのです。自分に与えられた環境の中で楽しみを見つけ、そして自分の可能性を捨てずに色々なことにチャレンジしてほしいと思います。

## ●施設の先生から

朱薫さんは、小さいころから目標に向かってコツコツと努力する子でした。園のソフトボールの活動ではエースで主将を務め、1年間黙々と一緒にピッチング練習を続け、見事3位入賞を果たしました。卒園後は大学で法律を学び、今はサービス業に就いて頑張っています。初任給で贈ってくれたビールは僕の大切な宝物で飲まずに大切にしております。どのような辛い状況にあっても笑顔で前を向いて歩む朱薫さんを僕は誇りに思っています。

鎌倉児童ホーム  
児童指導員 山神 裕一郎先生

## 今できる事を

2007年あすなろ学園退園生  
坂井 譲二(介護福祉士)



僕は小学6年生の時にあすなろ学園に入所しました。すぐ泣いたり泣いたりしていたので、とても手のかかる児童だったろうと思います。金銭的な面で進学を断念し、介護職を選びました。なんとか社会人になれましたが、入社一年目から遅刻の連続で、3年目になっても遅刻癖が直らず、“寝られないし起きられない”の悪循環で困っていた時に、施設の先生が心療内科を紹介して下さり、生活リズムが整ってきました。4年目に勉強をして介護福祉士の資格を取得して、ますます仕事が楽しくなってきました。僕の愚行をきちんと叱って下さり、施設を退所してからも気にかけて下さる園長先生をはじめ、学園の先生方には感謝のみです。現在入所している児童の皆さんの中には辛い思いをしている人が多いと思います。「なんでここに居るんだろう」僕もそんな時がありました。そうして悩んでいる事にきっと意味があります。精一杯今できる事を頑張らしましょう。結果は後からついてきます！

## ●施設の先生から

譲二は、小学6年生の途中で学園に入所し、高校卒業までの約6年半を学園で生活していました。高卒後は県内の白山市にある特別養護老人ホームで介護職員としてずっと働いています。精神的に弱い面がまだまだ見られ、心配させられることもありますが、優しい性格なので、介護職に向いていると思います。1年に2~3回は来園して顔を見せてくれるので嬉しく思っています。人懐こい笑顔と、優しい気持ちを忘れずに、器の大きな人間に成長してくれることを願っています。

あすなろ学園 指導員 寺西 征先生

## 今、感じる事

2007年八代ナザレ園退園生  
倉富 美幸(会社員)



今の会社に就職して5年が経ちました。他県に就職した事もあり、最初はきちんとやっていたのかとても不安でした。ですが、周囲の方々の支えもあり、仕事も徐々に慣れていき、今では毎日楽しく充実した日々を過ごしています。今、皆さんは、施設での生活をどう感じていますか？楽しい事はもちろんあると思いますが、辛い事、嫌な事も当然あると思います。私自身、集団生活の決まり事や、プライベートがあまりないなどで不満を感じる事も多くありました。しかし、社会に出て生活していくうちに、施設で身に付いた事は役立ち、いつも先生方に支えられ、守られていた事に気がつきました。今では、施設に居てよかったと心から思っています。最後に、さまざまなお思い、感じる事はありますが、いつも感謝の心を忘れず、一日一日を大切に過ごして欲しいと思います。

## ●施設の先生から

彼女は小さい時からしっかり者で自分の弟や、小さい子供のお世話を良くしてくれました。高校時代は体育祭の応援団の準備など遅くまで責任を持って行い、勉強はいつも上位でした。現在は静岡県の大きな製造会社で働いていますが会社での仕事の信用も厚く、今では大きな工場内の中心的コンピューターの責任を受け持っております。先日久しぶりに帰園しましたが、静岡名産のお菓子をお土産として園の子ども職員全員の為に買って来てくれました。これからも健康に気をつけて頑張ってもらいたいと思っております。

八代ナザレ園 園長 富田 美智子先生

## 全国里親会 イベントニュース

# 子どもたちの自立のために



公益財団法人全国里親会 会長  
星野 崇

家庭で暮らせなくなった子どもたちの多くは、施設や里親に委託されていますが、国内の要保護児童約4万名の内、約5千名が里親家庭で育てられています。日頃、子どもたちの進学・就職のために未来のつばさ財団から心温まるご支援をいただき、感謝の念に耐えません。

## ■里親の養育力の向上を

平成21年に厚生労働省が示した社会的養護の課題と将来像に基づき、家庭養護(里親及びファミリーホーム)の割合を将来的に3分の1にまで増やそうとされていますが、単に里親を増やせばいいというものではなく、幼い時に親の愛情をたっぷり受けられなかった子どもは年とともに様々なトラブルを迎えがちです。里親の養育力をもっと向上させねばなりません。児童虐待の相談件数が年間6万件にものぼっていますが、虐待の後遺症は簡単に癒せるものではなく、施設や専門家の協力を得ることが必要となっています。



## ■アジア初のIFCO世界大会

今年9月には、アジアで初めてのIFCO(International Foster Care Organization)世界大会が大阪で開催されます。IFCOは、社会的養護の充実を目指した国際的なネットワーク組織です。里親だけでなく、行政、研究者、施設職員等も一堂に集い、児童の代替的養護に関する情報交換を行う場です。大会には、里親家庭や施設で育った若者たち自身によるプログラムも用意されており、若者たちが互いに共感し、触れ合う場です。IFCOはこれからの日本の社会的養護の在り方を考える上でいい機会となります。多くの方のご参加をお待ちしています。参加ご希望の方は大会のホームページからお申し込みください。

<http://www.ifco2013.com/jpn/>

# ホームページをぜひご覧ください。

ホームページが6月にリニューアルされました!

## 公益財団法人 未来のつばさ財団

応募要項や施設の先生・施設を退所した先輩からのメッセージをご紹介します。

未来のつばさ

検索

<http://mirainotsubasa.or.jp/>



## NPO法人 エキスパート児童福祉支援協会

応募要項や会報誌「未来のつばさ」を掲載しています。

エキスパート児童

検索

<http://www.ex-child.or.jp/>



これまで発行してきた会報誌を各ホームページからご覧いただけます。



公益財団法人

**未来のつばさ財団**

〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町10-10  
日本橋インテリジェントフラッツ402  
電話:03-5642-7890 FAX:03-3249-7870  
E-mail:info@mirainotsubasa.or.jp



特定非営利活動法人

**エキスパート児童福祉支援協会**

〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町10-10  
日本橋インテリジェントフラッツ402  
電話:03-5642-6330 FAX:03-3249-7730  
E-mail:info@ex-child.or.jp